



新 牛久ごみ ニュース

牛久市のリサイクルルール(缶編)

缶は資源物の優等生！

リサイクルにおいて、もっとも資源化効率が高いものが「缶」です。それは、リサイクルする方が新品を作るよりもはるかに少ないエネルギーで生成することができるからです。ほかの資源物と比べ回収率をもっとも高いのも缶であり、缶はリサイクルの中でも優等生的な存在といえます。

☆缶のリサイクルとは？

缶は、缶ジュースや缶詰などの飲食物を保存する手段として古くから使用されてきました。材質は、丈夫な「スチール」製と軽い「アルミ」製に分かれており、スチールの材料として鉄鉱石を、アルミの材料としてボーキサイトなどの貴重な鉄鋼資源を用いています。日本では鉄鋼資源となる材料は海外からの輸入に頼っているのが現状です。資源化効率が高い特徴を生かして、リサイクルに努めることが重要です。特に、アルミやスチールは新しく作られるものよりリサイクルするほうが工



ネルギーを節約できることが大きな利点として挙げられます。再資源化することで、スチール缶では75%、アルミ缶では、なんと97%もエネルギーの節約をすることができます。

☆缶であれば何でもいいの？

「缶」といっても、缶飲料や缶詰のほか、薬品や塗料などが入っているものもあります。牛久市の資源物分別では、缶は、飲料用と食料用のものに限られており、薬品や塗料、機械オイルなどの缶は対象外となります。これら対象外の缶は、「燃えないごみ」としてお出しください。また、クッキーやあめなどの入っていた缶や粉ミルクなどの缶は、食料用の缶となりま

すので、資源物としてお出しただいて問題ありません。缶の資源

☆缶のリサイクルで注意することは？

缶を収集する際に、たばこの吸い殻や乾電池、ビニールごみなども入っているとことがあります。缶のリサイクルで注意しなければならぬことは、中身を残さないようにし、異物が混ざらないようにすることです。中身が残っている状態で捨てられると、集積所が汚れるだけでなく、せっかく洗って出していた別の缶も汚れてしまします。また、ジュース類はアリやハエなどを引き寄せ、害虫問題にもなりかねません。品質の良いリサイクルのために異物が混ざっていないことが条件となり

ますので、缶を出す際には中身を空にして、水でゆすいでお出しください。

そして、何よりも容器そのものを極力使用しないようにすることがもっとも大切です。無駄に缶製品を消費することを避け、どうしても排出する缶に対しては資源化する、という流れを守ることが環境保全の観点から必要となります。

～缶分別のポイント～

対象	食料用・飲料用のみ
注意点	中身を使い切って、水でゆすぐ

缶と同様に「瓶」も飲料用・食料用の容器として以前より使われてきました。そして、ガラスは完全再生できる数少ない製品でもあります。次回はこれら瓶のリサイクルルールについてお知らせします。

問い合わせ 市清掃施設課 ☎ 873・2111 内線1571～1572